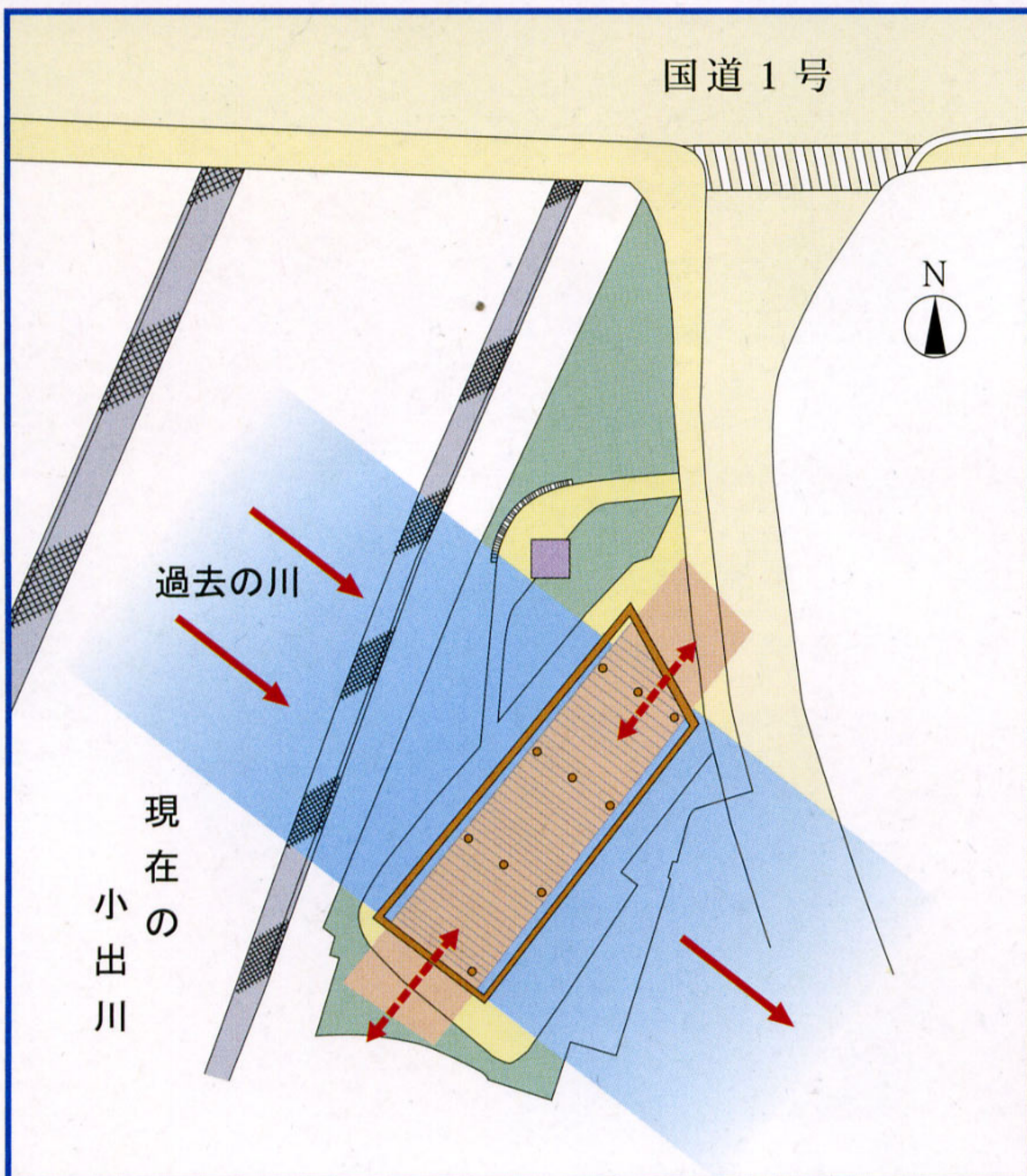
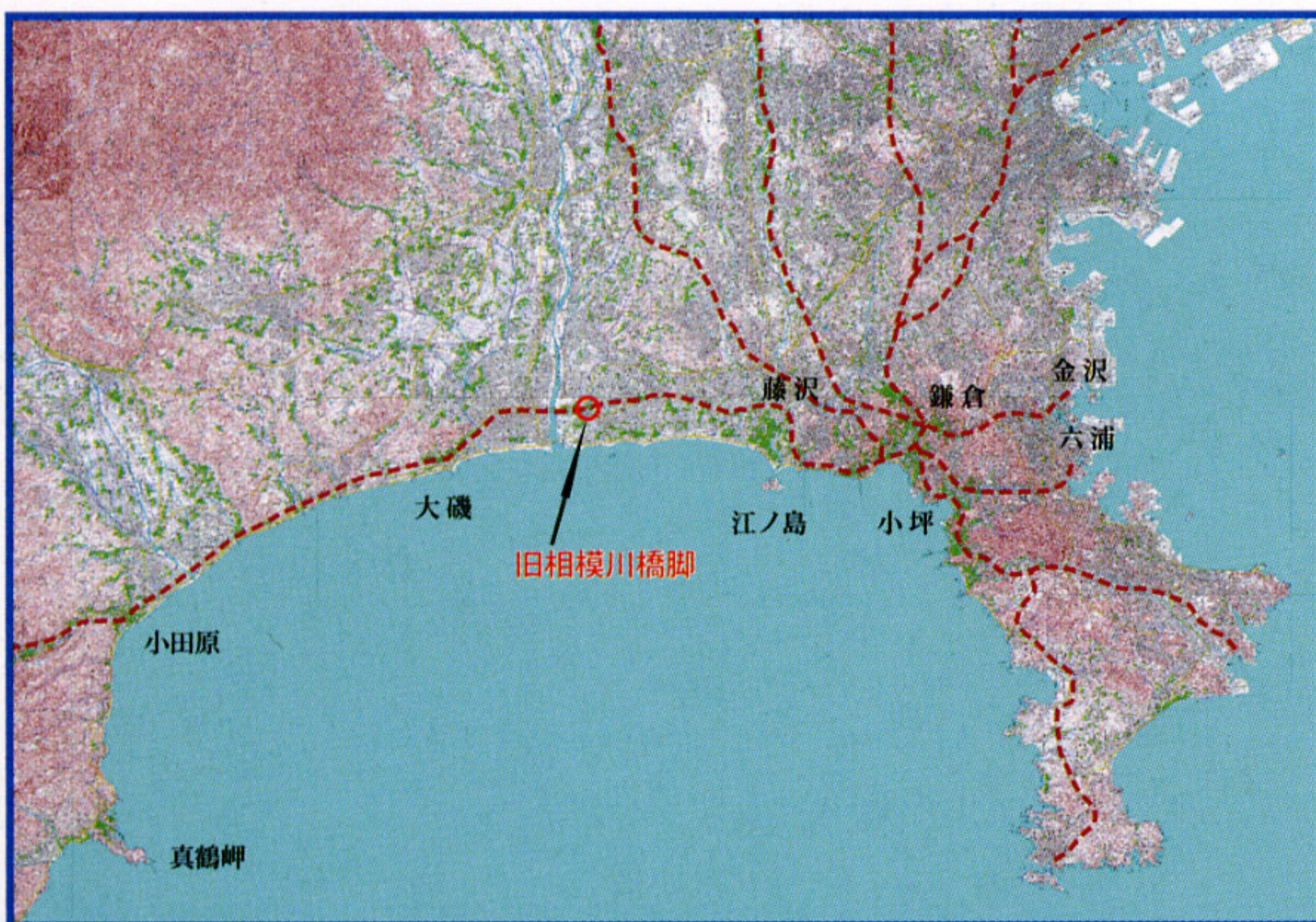


絵巻物に描かれた橋 「石山寺縁起絵」 『日本絵巻物全集』第22巻 1966 角川書店から転載



推定される橋の方向と川の流れ



推定される中世の古道

上の図は、阿部正道 1981 「かながわの古道」 『かもめ文庫かながわふるさとシリーズ』を参考に作成

## 橋全体の形

かまくらじだい げんぞん かいがし  
鎌倉時代の橋が現存する例はありませんが、絵画資料などから当時の様子を類推することは可能です。

## 橋の方向と川の流れ

しゅつげん きょうきやく はいち  
出現した橋脚10本の配置から、橋は北東から南西方向に架けられていたと考えられ、川は北西から南東に流れていたと推測されます。このことは堆積した砂礫層の観察からも裏付けられています。

## 橋の大きさ

なら ささ  
東西に並んだ3本の橋脚が橋の横方向を支えると考え、橋の幅は約9mと推定されます。南側の川岸がどこであるかがはっきりしないものの、長さは40m以上の立派なものであったと思われます。

## 鎌倉幕府との関係

わた  
川を渡るために架けられた橋は、道の一部だともいえます。政治の中心地であった鎌倉から西に約15kmの茅ヶ崎には当時の東海道が通っていたと推測され、重要度がうかがわれます。

国指定史跡 旧相模川橋脚 解説シート2 橋脚編

発行日 平成20年3月28日

編集・発行 茅ヶ崎市教育委員会生涯学習課文化財保護担当

印刷 神奈川印刷株式会社

茅ヶ崎市茅ヶ崎1-1-1 Tel: 0467-82-1111内線3343

平塚市明石町3-6 Tel: 0463-22-3344(代)